

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号			
法人名	有限会社 イマージュ		
事業所名	グループホーム 夢 (夢)		
所在地	余市郡余市町黒川町19丁目13番地2		
自己評価作成日	平成26年2月3日	評価結果市町村受理日	平成26年4月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0172500233-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北 1 条西7丁目1番あおいビル7 階
訪問調査日	平成 26 年 2 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の住民や近隣施設、保育園とのかかわりを持ち、地域全体で入居者の生活を支えています。また家族には、写真を添付した「近況報告」の手紙や広報誌を毎月送付して情報を共有し、家族との連携も密にしています。
また、毎年一年間の写真や行事の動画のDVDを作成し、家族や地域、各関係機関に配布したり、ホームページ内のブログに日常の様子をのせ、開かれたホーム作りに努めています。
入居者とのコミュニケーションの機会を多くとり、意向や希望、変化等を把握して、毎月の合同レクや食事の嗜好、毎日のケアに活かしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人代表が介護に想いを込めて開設したホームは、職員が代表の意向と理念を理解して介護する側とされる側の関係でなく、暮らしを共にして楽しく過ごす家族としての意識で支えているため利用者の表情も明るく笑顔があります。家族にはホーム来訪時の懇談やホーム便り「夢につき」で利用者の様子を伝えていますが、さらに、利用者が楽しそうに日常生活を過ごしている写真や動画のDVDを作成して送付し、家族に大変喜ばれています。ホーム行事への住民参加、近くの介護関連事業所との連携、利用者の地域諸行事への参加、保育園や幼稚園及びホーム近くの学校生徒との交流など地域に密着したホームです。利用者は、各種行事への参加以外に果物狩などの外出行事や外食、菜園での作業、食事会、誕生会など数多くの催しなどに職員と一緒に楽しみながら過ごしているホームです。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の尊厳を重視した理念を、朝夕の申し送りで暗誦して理念を頭に置き、実践に取り組んでいる。	理念をホーム内に掲示し、案内パンフレットや重要事項説明書にも明記しています。さらに、申し送り時に理念を唱和し、毎月のカンファレンスにおいても理念を意識したケアサービスについて確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園との行事での交流や、運営推進会議や行事参加で地域住民、近隣関係施設との関わりを持ち、地域とつながりながら暮らしている。	ホームは住宅の少ない地域に位置していますが、ホームのお祭りへの住民参加、近くの介護関連事業所との連携、保育所や幼稚園及び諸学校生徒との交流など地域に密着した存在となっています。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談以外でも、認知症に関する相談があればできる範囲内で対応している。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営報告や外部評価結果報告をしている。また、ホームへの意見や要望を聞き、今後のケアに役立てている。	運営推進会議は、家族、地域住民、行政関係者、ホーム関係者のメンバーで2ヵ月毎開催して報告事項や意見交換をしています。会議の意見から盆踊りや花火大会を実施するなど会議結果をホーム運営に反映させています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月運営状況報告とホーム便りを町担当者へ提出し、入居状況等について報告している。運営推進委員として会議に出席していただき、相談や助言をもらっている。	町職員が運営推進会議に参加しており、ホームを訪れています。管理者は、諸書類提出や相談に行政担当窓口を頻繁に訪問したり、連絡を取るなど町との協力体制が構築されています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束虐待廃止委員会にて毎月現状報告をし、全体会議で討議している。また、身体拘束廃止資料を作成して意識付けをしている。	職員は、外部研修やホーム内の勉強会等で身体拘束をしないケアの必要性について認識し、関連の資料も独自に整備して利用者へのケアサービスに反映させています。また、委員会制度も取り入れ、全体会議で関連事項を発表するなど身体拘束をしないケアに積極的に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束虐待廃止委員会にて毎月現状報告をし、全体会議で討議している。外部研修参加の機会があれば参加し、また、独自の高齢者虐待防止資料を作成し、職員の意識付けをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修があれば参加し、必要時は関係者に相談する等している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からは会話の中で、家族からは運営推進会議や面会時に意見、要望を聞き、各委員会や全体会議で討議している。	家族来訪時やホーム便り「夢につき」で利用者の様子を伝えていますが、さらに、日常生活の写真や動画をDVDに収録して家族へ配布し、大変喜ばれています。家族からの意見や要望は申し送りや連絡ノートで伝え、委員会や全体会議で協議して運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会や全体会議、各ユニットのカンファレンスにて意見交換をしている。	管理者とリーダーは、職員と日常業務や会議で率直に話し合いをしています。法人代表も頻繁にホームへ来ているため職員と接触の機会も多く、職員からの要望等を運営に活かすよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議での職員の意見を参考にして、職場環境の整備などに配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が平等に研修を受けることができるよう、外部研修の参加機会を設けたり、研修参加者には全体会議にて参加報告をしてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	余市グループホーム協議会、北海道認知症グループホーム協議会、余市ケアマネ連絡協議会の会員になっており、研修の参加や同業者の訪問に対応したりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問にて本人の意向や希望を確認し、家族や担当ケアマネから生活歴などの情報を得て、本人が安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に家族の不安や要望を聞き、不安が解消されるよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付時の内容により、それに合ったサービスの説明や、各関係機関と連携して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者本人の出来る事やしたいことを聞き出し、相談しながら役割を実行してもらっている。調理や畑作りの際も、入居者に教わりながら一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月近況報告や広報誌を家族に送って情報を共有したり、面会時には家族の意向などを聞いている。家族参加の行事を設け、入居者と共に参加できる機会を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親しい友人の面会や、手紙の投函の支援をしている。要望があれば、職員や家族との外出の支援もしている。	家族以外に利用者を訪ねてくる知人も多く、お茶やおやつ、時には食事も提供して歓迎し、居心地良く利用者と歓談できるよう配慮しています。利用者馴染みの場所へ外出希望にも職員が付き添って支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂での会話やレクを行い、必要に応じて職員が間に入るなどしながら、入居者同士の関わりを支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、家族からの相談があれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをとりながら本人の意向を把握し、カンファレンス等で検討している。ケアプランで本人ニーズという事で、役割として取り入れている。	職員は、利用者との日常的接触や介護記録等で思いや意向を把握し、嗜好調査も実施しています。思いや意向の把握が難しいときは家族の意向確認や職員間で相談していますが、本人の嫌がることは避けるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルに、生活歴や入居前の状況を明記した仮サービス計画書に家族関係などを入れ、全職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや介護記録に明記し、現状を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を取り入れたケアを話し合い、介護計画を作成している。主治医や訪問看護師に相談し、意見や指示を反映することもある。	ケアプランに連動したホーム独自のケアプランマップを作成して利用者へのケアに反映させています。利用者についてカンファレンスで協議し、状態変化に応じて3ヵ月～6ヵ月毎に家族と医療機関に相談しながらプランの見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や独自のケアプランマップでモニタリングをして、全職員が共有し、ケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物、外出の支援や、家族の宿泊に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや近隣施設、消防署との連携をとっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を聞いてかかりつけ医を決め、定期往診や定期受診を受けている。	協力医療機関による2週毎の定期訪問診療と希望に応じて歯科の訪問診療があります。他の医療機関受診の際には職員も同行し、家族が同行できなかった時には利用者の受診状況を伝えています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づいたことを職員間で話し合い、週1回訪問看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に、ホームでの生活状況の情報提供をしている。退院については、主治医と家族と相談しながら対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「看取りの指針」を渡して説明し、本人や家族の意向を把握し、ホームでできる事の説明をして、その時の状況に応じた対応をしている。	利用者入居時に終末期の指針を説明していますが、利用者が重度化や終末期に近づいた際に、再度、家族や医療機関と利用者の対応について相談し、利用者の状態に合わせたケアサービスに取り組んでいます。	利用者の高齢化と介護度上昇で看取り事例発生の可能性が高まりますので、重度化や終末期へ近づいた利用者への具体的対応策を家族と確認し、取り交わす「意向確認書」を他グループホームの事例を研究しながら作成の検討を望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命講習に職員が参加したり、消防署救命救急士による勉強会を行っている。緊急時や応急手当のマニュアルがある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。近隣施設との災害時協定の締結や、近隣住民に避難訓練の参加をお願いし、協力体制を築いている。	消防署の指導を受けながら夜間想定を含め、住民も参加して年2回の避難訓練を実施しており、毎月、防火自主点検表でチェックしています。停電に備えたカセットコンロや灯油ストーブ、食料品などの備蓄品も用意しています。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、プライバシーに配慮した対応をしている。また、その人に合わせた声掛けや介助に心掛けている。	職員研修で、利用者の人格尊重やプライバシー損ねないケアサービスのあり方について学び、実践しています。特に、入浴や排泄支援の際の声かけに十分配慮し、職員間でも最善の対応策について話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎月のバンバイキングで選択の場面作りをしたり、入居者の希望を取り入れた食事、レク、行事の実施をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望やペースに合わせて過ごせるよう、努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する服を選んでもらったり、外出時の着替えなど、その時に応じた身だしなみができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや漬物づくり、できる方には調理や食器洗い、片づけを一緒に行っている。	一部の利用者は食事準備や後片付け、畑の野菜収穫と調理を手伝っています。ホームでは、通常の食事以外に誕生会、茶話会、行事食、出前による食事会、屋外食事会、外食等と多種多様の食事を利用者が楽しめる様努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量をチェックし、その方に合わせた食事形態で提供している。毎身体重測定をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや義歯洗浄の声掛けをし、うがいは緑茶を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックにて個々の排泄パターンを把握し、トイレの声掛けや誘導を行っている。オムツを使用している方にもトイレで排泄してもらっている。	利用者一人ひとりの排泄チェック表を参考にし、表情など様子も観察しながらトイレ排泄へ声かけ誘導しています。利用者の下着類も、それぞれに適した違和感の無いものを選んで快適な生活が送れるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や廊下歩行等の軽い運動の働きかけや、乳製品の飲用等、便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めているが、ゆっくり入りたい方には曜日を変えるなど、柔軟に対応している。湯の温度の好みを確認している。	入浴の曜日は週2日決まっていますが、入浴日以外の入浴を望む利用者には、入浴曜日が異なっているユニットの方を利用しています。入浴を拒む利用者には、無理をせず話しかけたり日時を変更して支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に食堂や居室で過ごしていただいている。状況に応じて居室で休息をしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋を綴じており、直ぐに内容が把握できるようにしている。与薬は手渡し等個々に応じており、服薬し終わるまで見守りと確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた役割を行ってもらい、レクも希望や能力に合わせて、個別に実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出喫茶や買物等、希望に応じて行っている。必要時には家族に協力してもらっている。	ホーム周辺を散歩していますが、近くの事業所のお祭り参加、保育園や幼稚園の行事見学、ホーム敷地の菜園や町の畑での作業、果物狩りや展望台等訪問、ショッピングセンターで買い物、外食など外出機会が非常に多く、利用者は変化に富んだ外出を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方にはお金を持っていただき、買い物などで自分で支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方には対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り付けや、居間にはソファを置いて自由に出入りできるようにしている。カーテンやブラインドで日差しの調整をしたり、湿温度計の設置での管理をしている。	寮を改造してホーム開設後10年以上経過しましたが、内部全体に清掃が行き届き、衛生管理も十分に行われています。ユニットの居間兼食堂には季節の飾りや利用者の作品が飾られて親しみのある空間になっており、室温や湿度にも配慮されています。また、両ユニットの居間兼食堂で種々の催しが行われて利用者は楽しく過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間で独りで過ごしたり、入居者同士や職員との会話を楽しんだり、思い思いに過ごしてもらっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち物の制限はなく、入居時に本人が使い慣れた物を持参するよう、家族に説明している。	居室には広い押し入れがあって収納と整理に便利な構造で、温湿度計も設置されています。利用者は使い慣れた部物品等を持ち込み、好きなように配置してのんびりと過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室の手すりや、各居室に物干しを設置しており、入居者の能力に応じて使用してもらっている。各居室前には入居者目線の表札と、花の飾りがあり、わかりやすくしている。		